

教育学部学部共通科目（教職キャリア科目など）カリキュラムマップ

養成人材	教職及び教科に関わる学問並びに芸術・スポーツ諸領域の総合的な研究及び教育を通して広く教育の発展に寄与し、主体的で豊かな人間性を基底としつつ教職に必要な専門的な知識・技能を身につけた、理論及び実践の両面にわたる力量ある質の高い教員の養成				
学位授与の方針	①専門的な深い知識の修得に関連する事柄 ○課程・コース・専修等ごとに定められた教育に関する専門的な知識・技能 ・教職に関する専門的な知識・技能 ・教科や専門分野に関する専門的な知識・技能 ②専門性のある幅広い基本的知識の修得に関連する事柄 ○教育の基盤となる基本的知識、態度、能力 ・日本国憲法に関する基本的な理解 ・心身の健康に関する基本的な理解と態度 ・人文学・社会科学・自然科学に関する幅広い理解 ・英語を用いて意思を疎通させる能力 ・情報リテラシーとプレゼンテーション能力 ③学部における人材養成の目的に合致した資質・能力の獲得に関連する事柄 ○力量のある教員に必要な知識・技能を活用できる能力 ・教科や専門分野に関する知識・技能を指導に生かすための方法的技術 ・教育実践を通じた子供理解と実践的指導力 ○教員に求められる人間性と社会性 ・教員としての使命感や責任感、教育的愛情 ・教員としての社会性や対人関係能力 ・社会貢献への強い意欲 ・学び続ける姿勢				
年次	授業科目名	到達目標	教育目標 1：教育学部では、力量のある質の高い教員養成を主眼とする。	教育目標 2：教育学部では、課程専修分野ごとに専門的教育を行い、教職の専門性と学問・文化の専門性の両方を修得させる。	教育目標 3：卒業要件として教員免許の取得を必修とし、教員免許・資格の取得に必要な教育課程を編成する。
教職キャリア科目					
1	ミュージアム・コラボレーションA	美術館での教育普及活動（主に親子対象の鑑賞プログラム）の実践演習を通じて、社会教育施設における学びの実際を体験的に学修する	◎	○	○
1	見沼フィールド・スタディーズA	さいたま市内にある大規模な農的空間・見沼たんぼをフィールドとして、地域と連携しながら学習指導を行うための基礎的能力を身につける。	◎	○	○
1	見沼フィールド・スタディーズB	さいたま市内にある大規模な農的空間・見沼たんぼをフィールドとして、学校ファームの価値を理解し利用のためのための基礎的知見を身につける。	◎	○	○
1	教育と人間形成	子どもを取り巻く環境、学校教育をめぐる諸問題について理解を深めるとともに、教職への意欲を高める。また、教育学の諸領域の特質について理解を深めるとともに、次年度以降の「教育学入門」や「教育学演習」に向けた各研究領域・方法の基礎的な知識を習得する。	◎	○	○
1	環境教育フィールドスタディ	環境正義の理念を基調とする環境教育実践の組み立て方について、現場へのフィールド・スタディを通して、基礎的理解を獲得する。	◎	○	◎
1	教育史概論	近代教育についての歴史的な展開に関する基礎的事項を理解するとともに、教育研究の歴史的なアプローチの方法について学ぶ。近代日本の教育における学校の意義と役割について、今日の学校の諸問題を視野に入れながら考察することができる。	◎	○	○
1	ジェンダー教育学概論	・小学校における特別活動に関する基礎理論を学ぶ ・ジェンダー平等実現のための教育の課題について理解し、学校における男女平等・ジェンダー平等の課題について考える。	◎	○	○
1	教師教育学概論	教師の仕事に関する国内外のさまざまな資料や事例から、教師の仕事の実態と専門性の特徴を理解し、これからの社会に求められる教師の専門性の在り方について自分なりの考えを育てようとする。	◎	○	○
1	教育における臨床の知	教育における臨床の知の意味を理解し、その視点から教育実践の探求をするスタンスを形成する。	◎	○	○
1	教材づくりと授業展開	授業づくりと教材開発についての基礎理論を身につけ、いくつかの特徴のある実践事例に基づいて、教材づくりの方法について理解を深める。	◎	○	○

1	学校・地域とカリキュラム編成	教育を上から統制する「官僚主義」的システムから脱却した地点で、現場教師による自由な教育実践がいかに創造され展開されるのか、その可能性について知的に洞察できるようにする。	◎	○	○
1	教師の成長と教師教育	実践者としての教師の成長や生き方について、自分なりの考え方を構築し深めることをめざす。	◎	○	○
1	メディアと学習支援	・初等中等教育における指導場面において教育メディアの特性と学習との関わりについて説明ができる ・発達心理学の知見や、それにもとづく最近の教育理論とを具体例を交えて説明できる ・小学校において体験活動、特にコンストラクショニズムの教育理論にもとづく学習活動や教材をデザインすることができる	◎	○	○
1	発達心理学概論	・人間の発達に関する基礎的な知識を得る。 ・各発達段階で、人が他者とかわり、社会的な存在になっていくプロセスについて理解する。 ・その上で、発達の知識や考え方を、どのように教育現場へと活かしていくのかについて自ら考える力を養う。	◎	○	○
1	木の学校・木の教育	1) 学校環境における木材の利用とその効果、価値について理解し、説明できる。 2) 学習材料としての木材の価値と学習効果について理解し、説明できる。 3) 森林、木材を題材としたカリキュラムの考え方や指導上の留意点がわかる。	◎	○	○
2	社会教育学概論A	学校教育とは異なる「もうひとつの教育」としての社会教育についての基礎的な知識を身につけ、同時にその現状についてのオリジナルな問題意識を獲得する。	◎	○	○
1	人間と芸術	この授業を通して、将来人間性豊かな人生を送るための一つのきっかけを獲ること。小学校教員に必要とされる教科横断的な知見を広めること。小学校における表現活動及び鑑賞活動の意義や指導内容について、コミュニケーション力の側面と、芸術的な側面とをバランスよく取り入れていく考え方について知ること。本科目のねらいは、1)「芸術は人間を救うか?」の問いに、2)音楽、映像、工芸、絵画、文学、コンピュータなどのさまざまな分野での芸術活動と、そこに関わる芸術家、研究者、そして一般市民の相互交渉について、体験的な活動を通して知るとともに、3)その背後にある、芸術や人間観に関する哲学的、歴史的な考え方を知ること、4)最終的に、履修者一人一人が、自らの芸術との距離感、位置関係を発見/確認できることを目指すものである。	◎	○	○
1	教育総合科目C(人間の〈性〉と〈生〉と〈死〉)	・小学校における総合的な学習の時間に対応できる強化横断的な学習について考える ・人間の性と生、死に関わる今日の問題を教育の観点から多面的にとらえる。 ・子ども、若者を取り巻く今日的課題を知ることで教育の課題について考える。	◎	○	○
1	自然観察入門	小学校、中学校理科分野における地学野外調査、観察の基礎を習得する。	◎	○	○
1	自然災害と防災教育	土砂災害や河川の氾濫など、地形変化が人間活動に支障をきたすと「災害」になる。したがって、自然災害をきちんと理解するためには、地形学をはじめとする地球科学の諸分野を学ぶ必要がある。本講義では、自然災害が起こるしくみを、自然環境の成り立ちや地図材料(岩石・土壌など)も含めて理解し、防災・減災に役立てられる考えや意識を養うことを到達目標とする。	◎	○	○
2	学校フィールド・スタディ I	教員が行う教育活動の一端を体験的に学ぶことを通して、教員としての子どもへの関わり方などを身に付けることができる。	◎	○	○
2	サービス・ラーニング	教職に求められる専門性と人間的資質の基礎としての市民性を習得する。	◎	○	○
2	ミュージアム・コラボレーションB	美術館での教育普及活動(主に親子対象の鑑賞プログラム)の実践演習を通じて、社会教育施設における学びの実践を体験的に学修する。	◎	○	○
2	スクールガーデニング	学校等の花壇や田畑において、草花や作物を栽培するための基礎技術を習得する。	◎	○	○

2	学校教育と社会教育	・社会教育、また社会教育と学校教育との関わりについて、歴史、理論、実践に関する基礎的な知識を獲得し、連携の意義を理解できる。 ・社会教育と学校教育がどのような関係を持ちうるかについて、自分なりの考えを持つことができる。	◎	○	○
2	教育総合科目D(歴史と異文化理解)	学校教員、特に小学校教員として教壇に立つ者が、人類が歩んできた歴史や、異文化に対する理解力を高める。戦後日本が作り上げてきた歴史叙述は幅広い内容を持っているが、日本史の対外関係史が主流的地位に置かれず、また日本人にとってなじみのない地域の歴史や文化は軽視されがちである。この授業では、この2点にかかわる諸問題を扱い、教員をめざす学生に対して、グローバルヒストリーの考え方に基づいた歴史とはどのようなものか、あるいは異文化をどのように理解していくべきかについて、様々な見方を提示し、国際化に対応した健全な歴史観や世界観を育む一助としていく。	◎	○	○
3	日本史教育と日本史研究	日本史教育の教材開発と日本史学研究 ①小学校における歴史教育の特質を把握する。 ②初等教育における各時代の事実・流れと、近年の日本史研究の動向の共通点・相違点を把握する。 ③日本史研究が史料(文書・日記・絵画史料・出土遺物など)の分析に立脚していること、これらの史料が教育現場における教材としても活用できることを把握する。 ④史料を教材として活用した授業計画・実践の能力を育成する。	◎	○	○
3	学校フィールド・スタディⅡ	教員が行う教育活動の一端を体験的に学ぶことを通して、教員として子どもへの支援の方法などを身に付けることができる。	◎	○	○
3	ミュージアム・コラボレーションC	美術館での教育普及活動(主に親子対象の鑑賞プログラム)の実践演習を通じて、社会教育施設における学びの実際を体験的に学修する。	◎	○	○
3	キャリア形成科目Ⅰ(教師基礎力養成演習)	教師の仕事に対する強い情熱や教育の専門家としての確かな力量、総合的な人間力など、教員に求められる資質能力について理解することができる。	◎	○	○
3	基礎実習Ⅰ(養護用)	・教育実習の概要や教科指導(授業案の作成等)についての理解を深める。 ・参観実習においては授業の実際に触れ留意点をとらえ、教育実習に対する課題意識を明確にする。	◎	○	◎
4	学校フィールド・スタディⅢ	教員が行う教育活動の一端を体験的に学ぶことを通して、教員として職務を進めることができる能力や教員としての見方・考え方等の資質を身に付けることができる。	◎	○	○
4	ミュージアム・コラボレーションD	美術館での教育普及活動(主に親子対象の鑑賞プログラム)の実践演習を通じて、社会教育施設における学びの実際を体験的に学修する。	◎	○	○
4	キャリア形成科目Ⅱ(教師力向上ケーススタディ演習Ⅰ)	教員として職務を進めることができる能力や教員としての見方・考え方等の資質を身に付け、実践できる。	◎	○	○
4	キャリア形成科目Ⅲ(教師力向上ケーススタディ演習Ⅱ)	教育現場において適切に職務を遂行できる実践的な資質・能力を身に付け、実践できる。	◎	○	○
4	応用実習Ⅱ	・教育実習の体験を通して、教育学部学生としての一層の自覚を促し、将来の教職者としてのこれからのあり方を考える。 ・これまでに学んだ事柄の要素をつなげる有機的連関の中核として教育実習を捉え、自分なりの教師像を構築する。 ・子どもや教師とのかかわりの中で、子ども理解や教材解釈や授業案の作成の仕方、授業中での説明や発問の仕方とその裏側にある熟慮や判断のあり方、授業後の反省過程における問題点の焦点化やそれらを乗り越える手立ての発見の仕方などについて具体的に学ぶ。	◎	○	◎
4	応用実習(中学校・保健)(養護教諭養成課程用)	・教育実習の体験を通して、教育学部学生としての一層の自覚を促し、将来の教職者としてのこれからのあり方を考える。 ・これまでに学んだ事柄の要素をつなげる有機的連関の中核として教育実習を捉え、自分なりの教師像を構築する。 ・子どもや教師とのかかわりの中で、子ども理解や教材解釈や授業案の作成の仕方、授業中での説明や発問の仕方とその裏側にある熟慮や判断のあり方、授業後の反省過程における問題点の焦点化やそれらを乗り越える手立ての発見の仕方などについて具体的に学ぶ。	◎	○	◎

3	特別支援教育基礎実習(副免)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の概要や教科指導（授業案の作成等）についての理解を深める。 ・参観実習においては授業の実際に触れ留意点をとらえ、教育実習に対する課題意識を明確にする。 	◎	○	◎
4	応用実習(中学校)(乳幼児教育専修用)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の体験を通して、教育学部学生としての一層の自覚を促し、将来の教職者としてのこれからのあり方を考える。 ・これまでに学んだ事柄の要素をつなげる有機的連関の中核として教育実習を捉え、自分なりの教師像を構築する。 ・子どもや教師とのかかわりの中で、子ども理解や教材解釈や授業案の作成の仕方、授業の中での説明や発問の仕方とその裏側にある熟慮や判断のあり方、授業後の反省過程における問題点の焦点化やそれらを乗り越える手立ての発見の仕方などについて具体的に学ぶ。 	◎	○	◎
4	応用実習(幼稚園)(小・中学校コース用)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の体験を通して、教育学部学生としての一層の自覚を促し、将来の教職者としてのこれからのあり方を考える。 ・これまでに学んだ事柄の要素をつなげる有機的連関の中核として教育実習を捉え、自分なりの教師像を構築する。 ・子どもや教師とのかかわりの中で、子ども理解や教材解釈や授業案の作成の仕方、授業の中での説明や発問の仕方とその裏側にある熟慮や判断のあり方、授業後の反省過程における問題点の焦点化やそれらを乗り越える手立ての発見の仕方などについて具体的に学ぶ。 	◎	○	◎
4	特別支援教育応用実習(副免)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の体験を通して、教育学部学生としての一層の自覚を促し、将来の教職者としてのこれからのあり方を考える。 ・これまでに学んだ事柄の要素をつなげる有機的連関の中核として教育実習を捉え、自分なりの教師像を構築する。 ・子どもや教師とのかかわりの中で、子ども理解や教材解釈や授業案の作成の仕方、授業の中での説明や発問の仕方とその裏側にある熟慮や判断のあり方、授業後の反省過程における問題点の焦点化やそれらを乗り越える手立ての発見の仕方などについて具体的に学ぶ。 	◎	○	◎
4	教職実践演習(中・高)(養護教諭養成課程用)	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の職責や直面する課題について理解を深め、教師としての資質能力(社会性・コミュニケーション力・児童理解力・指導力等)を高め、同時にその力量を自ら向上させるための教育臨床的研究の方法・知見の修得をより進めることを目的とする。 ・児童生徒の特質や心身の状況の理解のための資質・能力を向上させ、教材研究・カリキュラム開発、授業の計画・実施及び学級経営など、教育実践を行う上で必要となる技能と結びつけて実践力を高めることを目指し、それらを支える専門的な知見を総合的に深めることを目指す。これらを通して教師としての専門的な資質能力を確かなものとする。 	◎	○	◎